

## 本年上半期の出来事

橋本 英人<sup>\*1</sup>  
Hashimoto Hideto

とある午前中の社内会議終了後からなぜか左奥歯が徐々に痛くなり、昼食を取るにも奥歯に気を使うありさまであった。昼食後、出張の移動中の電車で痛みが酷くなり、下車して歯医者に駆け込んだ。レントゲンでは歯が根っここのとこで割れているように見え、歯茎も弱っており、歯茎から菌が入り込んで炎症を起こしているのではないかと、ということで痛み止めと抗生物質を投薬された。炎症途上では外的治療はできないとのこと。とにかく薬を飲み、痛みが取れないまま打ち合わせを済ませ、帰宅した。あまり痛み止めが効かないので、夜遅くまで開業している歯医者家族を探してくれて、またまた駆け込んだ。

医者いわく、炎症を鎮めなければ、やはり治療はできないと。注射を打たれ、強めの痛み止めを処方され、これから膿が出てくるので、積極的に出すようにと指導された。早速痛み止めを飲み、だいたい4時間おきに飲めば、強烈な痛みを感じずに済むことがわかり、心の余裕ができた。一夜明けたら、左の頬がパンパンに張れあがり、熱も上がっており、昨晚行った歯医者にまたまた駆け込んだ。以前、耳の裏が化膿し、耳鼻科にかかったことがある。そのときに医者から耳は脳が近いので、菌が脳に入ることがあると聞いたことを思い出し、菌も脳に近いので心配になったことからである。医者は膿を出しやすくするために、麻酔をし、歯茎にメスを入れ、膿を絞りだし始めた。そして痛みの状況

が酷いので、点滴をすることを提案された。やはりと思った。耳の裏のときも点滴をしたからだ。この医院では点滴をすることができないため、大学病院に紹介状を書いてもらい、行けば処置をしてもらえよう連絡をしてくれた。

もともと平熱が低く、熱の影響に弱いのか少しふらつきを感じる状態のなかで、大学病院に到着した。受付は電気が消えて閉まっていたが中にいる人を呼び出して、予約があること、状況を説明すると、すぐ診察カードを作ってもらい、診察室に向かった。体温を測られ、化膿の状態を見られ、レントゲンを撮り、血液を採取され、点滴を打たれた。点滴は5日する必要があるということで、その日をスケジュールにて医者が少しでも空いている診察時間帯に押し込んでもらった。血液検査のデータが出て、医者が見た瞬間、医者顔色が変わり、炎症度合いを示すデータが振り切れていると言い、このデータでは本日即入院してもらわなければならないので、入院できますかと問われ、入院はできませんとすぐに答えてしまった。入院すると一日では済まない勝手に思って即答したもの。医者は、帰宅途中に倒れる危険があるので、必ずタクシーで帰るよう勧められ、それに従った。

翌日は通いで点滴ということで、念のため入院準備をして病院に行った。医者は私の顔を見て、昨日よりは落ち着いた顔なので、入院の必要はないと。私も今まで病名を聞く余裕がなかったので、医者に

---

\*1：取締役 管理室長

尋ねた。「左下顎蜂窩織炎<sup>ほうかしきえん</sup>」と。生活の不摂生等による体力・免疫力の低下から菌が過去に治療した歯の根っこに入り炎症を起こしたもの。予定されていた5日の点滴が終わって、最終的には家の近くの歯医者にて炎症の源になった歯を抜いた。これで一件落着であるが、菌は人の弱みにつけ込んでくるということを再認識し、予防をすることを肝に銘じた。この病との戦いでは、なぜかたばこを吸う気が起らず、また今でも喫煙室に行く気がないので、不幸中の幸いというか副産物を得たような妙な感じである。お恥ずかしい話であるが、皆さんのご参考になれば幸いです。

夏の斉休暇で北海道に帰った。実家があるので毎年夏には帰省する。もちろんゴルフ付きである。今回は休暇の中間日に私自身、観光として訪れたことのない栗山、富良野、美瑛<sup>びえい</sup>を妻、義母と一緒に回った。栗山には明治時代からの酒蔵があり、最近では北海道日本ハムファイターズの監督と同じ名前であることを町興しに使得、マスコミへの露出が多くなっている。まずはお昼時を狙って、栗山へ。酒蔵の近くにある蕎麦<sup>そば</sup>処で蕎麦ランチをいただく。酒の試飲はしなかったが、酒と蕎麦は昔から切っても切れないものなのと思った。酒蔵記念館を見学し、歴代首相との交流が伺える物品等が印象的であった。

栗山から、ラベンダーと「北の国から」そして「風のガーデン」でおなじみの富良野に入る。ラベンダーの花はもう終わりを迎えており、色も薄れていたが、外国人観光客を主に花畑通路は混雑して、ゆっくり鑑賞というわけにはいかなかった。ラベンダーと言えば「タイムトラベラー」「時をかける少女」を思い出した。

富良野と言えば私の年代では「北の国から」であるが、ロケ現場として保存しているところが3か所あるのだが、各々かなり離れており、歩いて回る

には辛いものがある。これも観光地化の戦略かなと思いつつ、そのなかで初期の舞台となった五郎の石の家を見に行った。外国人にはあまり知られていないためか、ドラマの余韻も薄くなっているためか、観光客もまばらであった。しかしながら、第1回の放送から35年も経過しており、メンテナンスに苦労されていると感じられた。見学コースの出口で、関係会社の方から突然声をかけられた。以前の部署でお付き合いがあった方で、「同年代なので、訪れるところも同じですね」と。5年ほど前にも函館のトラピスト修道院の長い階段を下りているところで、異なる関係会社の方にお会いしたことがあり、グループ一斉夏季休暇のためであるが、ビジネスマンの付き合いから私生活を垣間<sup>かいま</sup>見られることになり、少々気恥ずかしい感じを抱いた。

次の日は美瑛に入り、今回のメインの観光スポットである「青い池」に向かう。北海道の車の移動はほとんど渋滞がないので、思っている時間通りに到着する。私としては美瑛と言ったら、花畑、酪農、農産物、木工細工と思っていたが、「青い池」があり、これが有名なものと妻から聞かされていた。この写真がアップル社の正式な壁紙として登録されているとのことで、近年、観光客が内外から押し寄せていると。駐車場には、観光バスが10台以上、車（ほとんどレンタカー）、バイク、でごった返していた。車を降りて、池に向かうと中国語、韓国語に聞こえる方々が大勢列をなして池の周りの細い道を歩いていた。池を四分の一周回れるような細い道であった。途中写真スポットが何か所もあり、シャッターチャンスに苦慮して撮ったのが添付のもの（写真1参照）。空の反射で青いのではなく、流れ来るイオンの影響で青くなっているので、濃度の変化もあり、自然の神秘を味わうことができ一見の価値がある。

昼は観光牧場のレストランで食事をすることにした。以前義母がお世話したモンゴルから獣医の勉

強で北海道に来た方が美瑛の牧場で働いており、義母が10年くらい会っていないので、そのレストランで聞いてみようということで行ってみた。店員にモンゴルから来た人が働いているか聞いてみたら、なんと、社長のことですねと。連絡を取ってもらい、昼食後、牧場を見渡せる場所で会うことができた。やはり社長は黒塗りの車で登場。義母とはハグで挨拶。先代経営者から牧場運営を頼まれ、借金をして自分が買い取るようになったと。一度しかない人生、やりたいことをやろうと思い、思い切つて決断したとのこと。モンゴルから獣医の勉強で日本に留学していたころに、義母が知り合いから紹介され、よく食事などさせてあげたと。亡き義父のことをよく覚えており、義母が日本の母とのことで、会話が盛り上がっていた。将来的には宿泊ができるようなものを作りたいとの話もあがっていた。義母は会いたい人に会って、そのつながりをあなたたち（私と妻）につなぐことができた、とうれしそうに言ったことが耳に残っている。

今回の北海道ツアーは観光地ばかりではない。お参り、もちろんゴルフもやり、私の実家にも立ち寄ってみた。実家は実は2ヶ月ほど前にお隣さん



写真1 青い池（北海道上川郡美瑛町）

に譲ったものである。少し離れたところから見たのであるが、譲る前は何もなかった庭に、花、少々の野菜を育てているのを見て、使われていることが確認でき、安心したのと同時に、もうここに戻ってくることはないと思うとうら悲しいと気持ちになった。以前は家があるから戻ってきたが、戻る家も今回から無くなり、戻る理由がなくなったことによるものである。

北海道か東京かそろそろ終<sup>つい</sup>の棲家<sup>すみか</sup>を考えてみようと思った。



取締役  
管理室長  
橋本 英人

TEL. 045-791-3513  
FAX. 045-791-3539